

超音波診断装置プロサウンド F75 日本人間工学会グッドプラクティスデータベースに登録 [2010.10.25] 超音波診断装置

2010年7月27日、超音波診断装置プロサウンド F75 が日本人間工学会グッドプラクティスデータベース 日本工学デザイン部門に登録されました。

「人間工学グッドプラクティスデータベース(GPDB)」とは日本人間工学会が認定する「良好実践、良好事例」のことで、2008年6月上旬より運用が開始されました。様々な視点から審査が行われ、それを通過した事例だけが、データベースに登録されます。

データベースには、人間工学デザイン、グッドプラクティス、ガイドライン、工芸の4部門があります。人間工学的に設計された製品事例や、労働条件・環境を人間の諸特性に適合させた職場改善事例、バリアフリー・ユニバーサルデザイン導入による生活しやすいまちづくり事例、リスクマネジメント視点による組織人間工学事例など、幅広い対象が登録されています。

プロサウンド F75 は、人間工学デザイン部門（製品設計・商品開発に関する事例）で「人に優しい製品」として評価されました。

プロサウンド F75 は、機能と使いやすさに定評のあるプロサウンドの新シリーズです。F は Foresee、Foresight（予知する、予見する）の F。アロカのブランドステートメント「illuminate the change」を、超音波診断装置という形で高いステージで実現する、という決意を込めました。そんな機能へのこだわりに加えて、検査者にとっての使いやすさ、検査者・患者さま双方にとっての安心・安全を大切にして、プロサウンド F75 はデザイン・設計されています。

「ハイエンド装置は使いにくい」という概念はもう過去のもの。検査者の体勢や検査室の状況にフレキシブルに FIT するボディ。直感的に使える操作パネルと、作業効率をアップさせる液晶タッチパネル。プロサウンド F75 と一緒だと、いつもと同じルーチンワークもなんだか楽しくなってしまうかもしれません。

アロカの取り組みは機能の充実だけにとどまりません。アロカの製品開発では装置やその機能にアクセスする「人」を真剣に見つめています。

アロカ製品に関わる全ての人にやさしさを。今回の GPDB 登録はそういうアロカの姿勢が評価された結果だと言えます。

これからもアロカは人にやさしい製品を作り続けていきます。

[プロサウンド F75 詳細ページへ](#)

[グッドプラクティスデータベースへ](#)

